

**留学先国名** : イギリス

**留学先学校名** : マンチェスター大学

**留学期間** : 平成 26 年 12 月 20 日～平成 27 年 6 月 29 日

マンチェスター大学での留学において、達成したい目標を 3 つ掲げていました。1 つ目は英語力の向上、2 つ目は視野を広げること、そして 3 つ目は、日本という国をできるだけ多くの人に理解してもらうことです。まず 1 つ目の英語力の向上について、4 技能全てにおいて達成できたと言えます。大学での授業は週 3 回あり、一つの授業に講義形式のレクチャーとディスカッション形式のチュートリアルがあります。レクチャーは予習していることを前提に進みます。1 つの授業につき平均 2.30 ページの資料を読まなければいけず、授業がない日も図書館にこもってずっと予習をしていました。日本では全く見たこともない単語が多く最初はすごく時間がかかりましたが、慣れてくると早く読めるようになります。またエッセイを 1 つの授業につき 2 回出さなければいけず、これも大量の資料を読み込みました。エッセイの書き方や語彙はホームページにまとめてあったり、添削サービスなどもあったりしたので困ることはありませんでした。先生が話す授業での英語はとて聞き取りやすかったのですが、チュートリアルでの学生の発言が聞き取りにくく最初は苦労しました。また、発言するという意志を持たなければ、チュートリアル中一言も話さなかった、ということも本当にあり得たので意識してどんなに短い発言でも頑張るようにはしていました。またスピーキングについて、日常会話で友人がよく使っている表現をメモして積極的に使うようにはしていました。留学前の人にアドバイスをするとすれば、リスニングをひたすらすること、そして発音を正しいものにすることをお勧めします。留学中、いくら喋ろうと思っても相手の言っていることが聞こえなければ意味がないし、喋れても発音が悪ければ理解してもらえません。私の留学先には様々な国籍の人がいたのでアクセント自体は様々でしたが、アルファベットの発音は皆正しかったので意思疎通に困ることはあまりありませんでした。

2 つ目の視野を広げることにおいて、本当に様々な事を知って経験して、色々な角度から物事を考えられるようになりました。留学前、「海外の学生は自己主張が強い」ということを聞いて少し身構えていました。けれど実際は、もちろん自己主張が強い人もいますが、大人しい人もたくさんいました。日本人と変わりません。そのような、海外はこうだ、イギリスはこうだ、といった固定観念が次々と潰れていったように思います。またイギリス人は食に興味がない、ということも日本で聞いていましたが、厳密に言うと違います。確かに日本で売っているものと比べるとあまりおいしくなく、味付けもワンパターンのように感じます。けれどイギリスではいくつかの料理番組がとても人気でした。加えて私がイースター休暇に少しホームステイさせて頂いた家庭には料理の本がたくさんあり、食事もとてもおいしいものでした。キリスト教的な教えから家庭での食事を大切にしているのかもしれませんが。また様々な国籍の友人と喋り、お互いの文化や伝統を教え合いました。留学を通じて、世界は日本を中心に回っているのではないという当然ですがつい忘れがちなことを強く実感しました。

最後に 3 つ目の日本を知ってもらうというものについてですが、これについて 2 つのことを行いました。言語

交換と地元の小学校でのボランティアです。言語交換とは、お互いの母国語を教え合うものです。私は日本語を勉強しているイギリス人と週3回言語交換をしていました。彼は1週間の日本での旅行で日本が大好きになり、日本語を勉強しています。毎回、イギリスのことを教えてもらう代わりに日本のことをたくさん喋っていました。私自身も、当然だと思っていた日本の文化が世界ではすごく変わっていたことなどを知れ、学ぶことがたくさんありました。また英語の発音や表現も直してもらえるので、言語交換はぜひやることをおすすめします。大学の言語センターのようなところで募集を行っている大学も多いと思います。地元の小学校のボランティアは大学が募集していたもので、様々な国籍のボランティア達が小学生に自国の文化を伝えるものです。小学生に日本という国を分かってもらえるように、日本発のキャラクター達や日本食を載せたパンフレットを作ったり、日の丸のワッペンを作ってプレゼントしたりしました。またけん玉などのおもちゃにも興味を示してくれました。

以上の目標を念頭に置きながら、充実した留学生活を送ることができました。他にも、寮で毎日ご飯を共にし、時には映画を観たりパーティをしたりした友人達とは特に仲良くなり、帰国時は「また絶対会おう」と約束し別れました。留学生活を通して外側から日本を見ることで、「日本をさらに盛り上げて世界での日本の存在感を高めたい」と思い、帰国後はこれを軸として就職活動を行っています。日本では絶対に経験できないこと、知ることができなかったことをイギリスで体験でき、貴重な財産にするとともに、これからの人生において役立てていきたいと考えます。